

平成23年度事業報告

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

富山西インターチェンジが供用開始以来、9年が経過し、周辺地域からの高速道路へのアクセスや物流の効率化、文化・観光の振興、広域医療の推進など地域の発展に大きく寄与しているところであります。

平成20年7月には、連結する東海北陸自動車道が全線開通されたことから、より一層の利便性の向上が図られているところであります。

こうした中、インターチェンジ周辺開発事業である企業団地への入居につきましては、第1期事業の金屋企業団地には、29社が入居しており、また、第2期事業の呉羽南部企業団地におきましても、15社と分譲・賃貸借契約の締結がなされております。

残る分譲地につきましても、入居率100%に向けて鋭意誘致活動が行われているところであります。

なお、当期分のインターチェンジ建設負担金預り金につきましては、金屋企業団地では分譲・借地分を合わせて35,219千円、呉羽南部企業団地では分譲・借地分で80,462千円、合計115,681千円となっており、(独)日本高速道路保有・債務返済機構(略称：高速道路機構)へのNTT資金償還金に充当しております。

(2) 対処すべき課題

平成33年度までに償還予定のNTT資金の残額は、当期末で660,674千円となっており、償還金の財源である建設負担金預り金の確保のため、企業誘致の促進につきまして、今後とも富山市及び関係団体と協力しながら一層努力してまいります。

(3) 企業団地への入居におけるインターチェンジ建設負担金預り金の状況

	第15期まで	第16期	第17期	計
一括分譲	568,431千円	23,720千円	47,799千円	639,950千円
割賦分譲	9,582千円	1,732千円	1,732千円	13,046千円
借地	191,655千円	59,813千円	66,150千円	317,618千円
計	769,668千円	85,265千円	115,681千円	970,614千円